

令和4年度実施 居所変更実態調査結果の考察

この調査は、過去1年間の新規入居・退去の流れや、退去の理由などを把握することで、住み慣れた住まい等で暮らし続けるために必要な機能等を把握するものです。調査結果をもとに各施設等との議論を通じて、具体的な取組を検討します。

|                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| 1. 居所を変更した人、最後まで施設等で暮らし続けることができた人の把握 |   |
| 集計・分析の狙い                             | 過去1年間で居所を変更した人と死亡した人はどの程度いるか(どの程度の方が最後までその施設等で暮らし続けることができたのか)を把握する。   |
| 考察                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・看取りまで行われたものは特養(97.6%)や特定施設(87.5%)で割合が多い。次いで有料老人ホーム(37.4%)、サ高住(46.3%)が多く、老健は比較的少なく17.0%であった。</li> <li>・老健入所者は医療機関や特養などに移ってから亡くなっていると思われる。</li> </ul>   |
| 2. その施設等で暮らし続けるために強化すべき機能の検討         |   |
| 集計・分析の狙い                             | 居所を変更する理由として多いものは何か。どのような機能を強化することで、その施設等で暮らし続けることができるようになるのか。  |
| 考察                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・老健入所者の居所変更した理由第1位では「医療的ケア等の高まり」25.0%、「その他状態の悪化」25.0%、「状態等の改善」25.0%が同率で多いことから、病態等が悪化すると退所していると予測される。退所先が自宅の人は20%にとどまる。自宅での看取りにも対応できる体制整備が必要である。</li> <li>・有料老人ホームやサ高住では「身体介護の増大」が18.2%、16.7%が多い。身体機能を低下させない自立支援を強化し、必要なところにホームヘルプが提供できるよう事業者と連携していく必要がある。</li> </ul> |
| 3. 医療処置対応可能なサービスの把握                  |   |
| 集計・分析の狙い                             | 各施設・居住系サービスで、各医療処置を受けている人の人数はどの程度か。(各医療処置への対応が可能な施設・居住系サービスはどこか)  |
| 考察                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・老健では経管栄養(16.8%)、喀痰吸引(13.2%)、カテーテル(9.5%)の処置を受けている人は比較的多いが、その他の処置はあまり行われていない。他施設では有料老人ホームの「疼痛の看護」(5.3%)、「透析」(1.0%)、「酸素療法」(1.0%)を除いていずれも老健より実施割合が少ない。今後、医療と介護の両方のニーズを持つ高齢者が増えるため、ニーズに合わせた利用ができるよう、情報の整理と提供体制の確保が必要と思</li> </ul>  |

|  |      |
|--|------|
|  | われる。 |
|--|------|